

稲作だより第1号

令和 6年 7月 22日 発行

J A福岡市東部 福岡市農業指導センター農産班

～生育概要～

今年は梅雨入りが6月17日で平年よりかなり遅くなりました。このため、5月下旬～6月初めにかけて田植えを行った圃場では、初期生育は良好で茎数も順調に増加しました。しかし、6月中旬～7月に入り曇雨天傾向となったため、全般的にやや徒長気味の生育となっていますが、梅雨明けとともに生育は回復していくものと思われます。なお、病害虫の発生は現時点では少ないようですが、今後の発生には注意が必要です。

7月20日 現在	平均気温(°C)			日照時間(hr)			降水量(mm)		
	平年	今年	平年差	平年	今年	平年比(%)	平年	今年	平年比(%)
5月下旬	20.1	19.2	-0.9	71.9	58.2	80.9	34.6	64.5	186.4
6月上旬	21.3	21.0	-0.3	54.4	72.2	132.7	37.4	21.5	57.5
6月中旬	22.6	24.3	1.7	48.6	72.0	148.1	82.7	100.0	120.9
6月下旬	23.9	25.0	1.1	33.7	7.9	23.4	123.2	92.5	75.1
7月上旬	25.6	29.9	4.3	41.6	76.2	183.2	148.7	78.0	52.5
7月中旬	26.9	27.8	0.9	56.1	46.3	82.5	92.4	102.0	110.4

1. 病害虫の発生状況

【病気】

(1) いもち病

現時点では、管内の圃場では見受けられておりません。

※置き苗は早急に処分してください。いもち病の発生源になり危険です。



(2) 紋枯病

紋枯病は、高温傾向で降雨が多いと発生が多くなり、上位葉への進展も盛んになって被害も大きくなります。

毎年発生する圃場は注意しましょう。特に、畦が無く、コンクリート壁に囲まれているような田んぼでは、夜になってもなかなか温度が下がらないため、発生しやすい傾向にあります。



【害虫】

(1) セジロウンカ・コブノメイガ

梅雨期に若干飛来していますが、管内では無防除の圃場を除いてセジロウンカは見受けられず、コブノメイガも早植え圃場でわずかに見受けられる程度です。もし見つけても防除の必要はありません。

(2) トビイロウンカ (秋ウンカ)

梅雨期に若干飛来していますが、管内の調査では見受けられませんでした。しかし、念のため今後の発生動向には細心の注意を払っておいてください。なお、箱粒剤の「防人箱粒剤」「スクラム箱粒剤」を使用されていない方は、特に注意を払っていただくようお願いします。

トビイロウンカの特徴として『褐色で脂ぎったような色の小さいセミ』のような虫となっていますので、ご自分の圃場にいないか十分に観察して下さい。今後も発生動向を注視し稲作だよりでもお知らせしていきますのでご確認ください。

(3) イネカメムシ

近年、**発生が急拡大している要注意害虫**です。当 JA 管内でも昨年は全域で発生を確認しました。防除対策としては2つあります。

①出穂開花期の籾の吸汁による不稔籾の発生防止対策

周辺に比べ出穂期が早い**夢つくし**や逆に遅い**ヒヨクモチ**では集中して飛来する恐れがあり、**要警戒**です。

【防除】 出穂5～7日前 スタークル豆つぶ 250g
または
スタークル粒剤 3kg/10a

②乳熟期以降の籾の吸汁による基部型斑点米発生防止対策

イネカメムシは斑点米の生産能力が高いため、**すべての品種で要警戒**です。

【防除】 穂揃期頃 スタークル豆つぶ 250g
または
スタークル粒剤 3kg/10a

※他の斑点米カメムシ類も一緒に防除できます。

なお、液剤や粉剤を使用される場合は散布時期が異なりますので、使用に当たってはご相談ください。



(4) 斑点米カメムシ類 (今年は多発生の予想)

畦等のイネ科雑草の穂を吸って増殖し、稲の出穂後、田んぼに侵入します。薬剤防除だけでなく、日ごろの雑草管理と合わせて総合的な防除を行ってください。

畔草刈りは、出穂期10～14日前までに終了し、出穂10日前(穂ばらみ期)～出穂後20日間は草刈りをしないようにしてください。

薬剤散布のタイミングは、粒剤であれば【出穂期～穂揃期頃】
粉剤・水和剤であれば【出穂期の7～10日後】が基本となります

2. 今後の管理の注意点

(1) 水管理

多くの圃場で中干しは終了もしくは実施中と思われます。6月22、23日田植えの圃場もほぼ有効茎数を確保できていると思われますので、中干しを開始してください。

水稻の 生育ステージ	無効分げつ期	幼穂形成期	出穂期	登熟期	成熟期
水管理	中干し	間断灌水	浅水湛水	間断灌水	落水

<中干し後の水管理>

- ・ **中干し後は間断灌水**を行ってください。「水を入れ、自然に落ちるまで待つて、2日程度し

た後に、また水を入れる」といった管理になります。根の活力を維持し、登熟を支えていくために重要な管理です。

- ・ なお、出穂期前後7日程度は、稲の一生の中で、最も水が必要な時期です。水を切らさないようにしてください。
- ・ **台風襲来時は、深水**にして稲を保護してあげることが大切です。台風通過後も数日間は湛水状態を保ってください。

(2) 出穂期予想と穂肥施用

品種	田植日	出穂期予想
夢つくし	5月18日	7月29日頃
	5月25日	7月30日頃
	6月 8日	8月10日頃
元気つくし	5月25日	8月 5日頃
	6月 1日	8月11日頃
	6月 8日	8月13日頃
	6月15日	8月17日頃
	6月22日	8月20日頃
ヒノヒカリ	6月 1日	8月22日頃
	6月 8日	8月24日頃
	6月15日	8月26日頃
	6月22日	8月28日頃

赤とんぼの里やベスト化成 444、尿硫磷 48 を使われる場合には**出穂期予想の 20～18 日前頃**に、**油粕**が使われる場合には**出穂期予想の 25～27 日前頃**に穂肥を施用しましょう。

元気つくしの穂肥は 2 回です。1 回目施用後 7 日後に 2 回目を施用してください。

各品種の施肥量に関しては、稲作ごよみでご確認ください。

なお、どの品種も元肥に一発型肥料を使用している圃場では、基本的に穂肥は必要ありませんが、葉色が薄い（畦のイネ科雑草と同じ色）場合は、出穂の1週間～10日程度前に化成肥料（ベスト化成444等）を10kg/10a程度施用してください。

3. その他

<農作業安全>

台風や大雨の対策は極力前日までに行い、**水が引くまでは用水路等の危ない場所には近づかない**ようにしましょう。稲は1日冠水しても大丈夫な作物です。台風や大雨が過ぎ去った後で被害状況を確認しましょう。

また、農作業は可能な限り、朝夕の比較的涼しい時間帯に行いましょう。**作業時間を決め、定期的に休憩を取り、水分並びに塩分を補給するよう心掛け**ましょう。

<中後期除草剤>

田植え後に散布した除草剤の効果が不十分で雑草が残っている場合には、下記の薬剤でご対応下さい。

クリンチャーバスME液剤

ヒエ・広葉

収穫 50 日前まで

落水又は極浅水での散布

トドメバスMF液剤

ヒエ・広葉

収穫 50 日前まで

落水又は極浅水での散布

バサグラン粒剤

広葉のみ

収穫 60 日前まで

落水又は極浅水での散布

内容に関する問い合わせは、営農生活課または各支店の営農経済担当者へ

※土井米穀店からのお願い

土井米穀店にて、粳摺りを行った際にサイロへ粳殻が溜まっている状況が続いておりますので、今後、土井米穀店で粳摺りを行なわれた場合は、可能な限り引き取りのご協力をよろしくお願い致します。

また、店舗を利用されていない方でも、粳殻の引き取りも歓迎致します。

土井米穀店 TEL092-691-3010

営農情報について

①最新の情報を LINE でお届けいたします。

営農情報（稲作だより等）を「JA 福岡市東部 営農情報」の LINE でも発信しております。下記のQRコードから LINE のご登録をお願いいたします。



②稲作だより等の情報が下記のQRコードよりご覧いただけます。



※今後の発行スケジュールですが「稲作だより2号」をお盆前に、「稲作だより3号」を8月末から9月初頭、「稲作だより4号」を年末にと考えておりますので、ご参考下さい。